

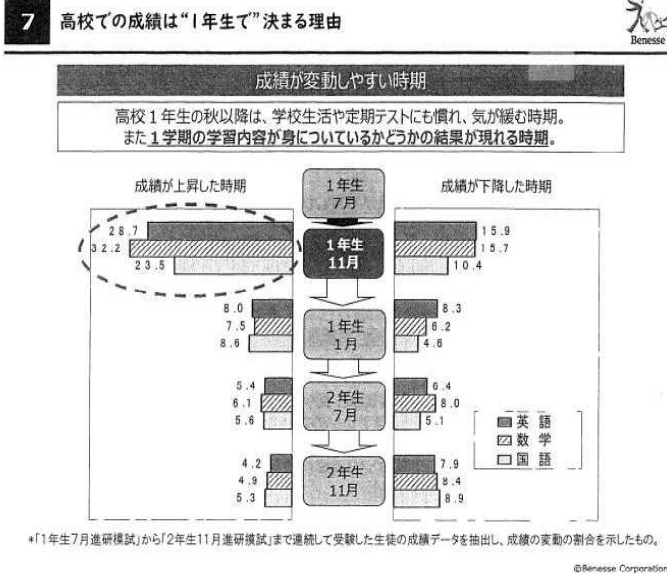
## 高校での成績は1年秋に決まる！

……なぜ今が重要なのか考えよう！

### 1年生秋の重要性

右のグラフは、「どの時期に成績の上昇や下降が起こっているか」をベネッセが、進研模試のデータをもとに分析したものである。これを見ると、意外かもしれないが1年生11月が圧倒的に上昇も下降も多い。これは下のよう理由が考えられる。まだ大きな差とならないうちに自分を奮い立たせようではないか。

今回はその奮い立たせ方をいくつか紹介しよう。



<理由>

- ①学校生活や定期テストにも慣れ、気が緩みがちな時期に、意識をもって「高校生としての学習」に臨めたか否かが大きな差となりやすい。
- ②高校生になってからの内容が身についているかどうか問われる出題になっているのが1年生11月回である。
- ③この時期は「進路や目標」が決まった生徒とそうでない生徒で、学習時間や意識の二極化が起こりやすい。

### やりたいことを調べてモチベーションを上げる

勉強を頑張るといっても、そんなに楽しいものばかりではないので、やる気の面で限界がくる。一般には「緊張」の前期に比べて「モチベーションが下がりやすい」のが後期である。となると、別の面から攻めていくしかない。そのひとつが「進路実現」という切り口だ。進路学習をほったらかしにしても進路はみんなのそばにはやってこない。こっちから動くしかない。進路のことを調べ、「あっ、これなら面白そう」「こんなことが研究対象になっているのならばやってみたい」といったものが見つければ、しんどいときで

も頑張れる。オンラインの講義も紹介されていたりするので、自分の興味関心があるところから飛び込んでいってはどうだろうか。ある受験誌の「進路がなかなか決まらない人へのアドバイス」を下に載せた。仮の目標を掲げるだけでも一歩進むことに気づいてほしい。

### 進路がなかなか決まらず心配である。どうすればよいか。

進路は職業と密接に結びついている。そして職業との関わりは長い場合これから40年間もあり、みんなの人生を大いに左右する。その職業が「楽しい」といえるかどうかはやはり「充実している、やりがいがある」かどうかによる。そのような大切な職業であるから、あせらずに真剣に考えて決めてほしいと思う。

ところがその際、「大学名を決める」→「そのなかで行きたい学部を考える」→「大学へ行ってみて、4年間でその次の職業を考える」という進め方だと、職業がまったくみえないし、いくら大学名が魅力的でも、ミスマッチだったときに袋小路に陥ってしまう。だから、「この職業につきたい」→「そのためにはこの学部に入りたい」→「その学部があるのはこの大学」と、下ろしてくる発想で考えてほしい。

しかし、なりたい職業そのものが見つからない諸君も、結構多いのではないかと思う。その場合、どうすればいいのであろうか。人間は生まれてから死ぬまでの間に、職業的には、成長→探索→確立→維持→下降、の過程を経て発達していくといわれている。そして高校時代は、その中の探索段階の最初である。この時期は、学校での学習課程や社会における経験を通して、自己理解を深めたり、自分の役割は何かを試行錯誤したりする中で、あくまで「暫定的」に職業を決め、自分に向いているだろうか、興味・関心と合っているだろうか、能力や適性はあるだろうか、学習や訓練によって実現可能であるだろうかなどの吟味を繰り返す時期である。ですから大いに「探索」していいと思う。「暫定的に決め吟味する」という動きを繰り返す中で、進路は絞られてくる。

仮に「機械方面に進みたい」と決めた人も、その次の段階として、「機械を学んだ人は、およそ将来、社会でこんな分野のこんな職業で活躍している」という事実を調べることができるし、「機械が学べる大学はどこ」という形で進路研究をすすめていくことができる。また仮に「看護師になりたい」と決めた人も、単なるあこがれから、患者さんに喜んでもらえたときの充実感や、社会貢献という使命感あるいは、死と向きあうつらさなど看護師という職業のもつ特性を知った上でめざすならば、きっといい看護師になれるであろう。その暫定的なものすら見つからないという人も、「職業紹介」や「学部学科研究」の載っている書物を見れば、「機械相手と人間相手では人間かな」とか「理系だけどデザイン関係が絡んだ仕事があればそのような仕事がいい」とか「何か医療関係で人の役に立ちたい」とかそんなところから考えていけば、徐々にいろいろな「枝」がカットされ、「幹」が見えてくるものである。おおいに悩んで探索してほしい。

※：裏面に進路希望調査第2回の質問欄よりQ&Aを載せた。

## 進路希望調査の質問欄より

進路希望調査の質問欄より代表的なものに答えてみました。ただし重複するものをまとめたり、一部改変したりしています。また、ここに載せきれなかったものも多数あります。個別に進路指導部まで相談に来てください。

### Q：大学をどう選べばいいですか？

A： 1年生に多かったのが、進路希望について「まだ何も決まっていない」「どう決めればいいのかわからない」という声でした。高校に入学してからまだ半年ほどですから、ある意味で当然なのかも知れません。しかし、何もしないままではいけません。

調査をみるかぎり、ほぼすべての人が進学を希望しています。悩んでいる人も、「とりあえず大学へ行こう」と思っているようです。進学したい大学を決められないのなら、一番オススメなのは、社会的に評価の高い大学を選ぶことです。東大や京大などの最難関大学に進学しておけば、将来的に「これをやりたい」と思ったときに、実現できる可能性が高くなります。特に文系の場合は、「自分探し」をするために進学して、大学で将来について改めて考える人もいます。

「東大や京大はとて…」と思った人は、自分はどの大学になら合格できると考えているのでしょうか？ また、自分の学力と大学の難易度について、きちんと知っていますか？ 気を付けて欲しいのは、「(そんなに勉強を頑張れない／特に勉強したくないから) 行きたい大学が決まらない」と言っていますか？ ということです。

本当に「決まらない／決められない」ならば、最難関大学への進学を目標にしましょう。また、世の中には若い力を必要としている分野や産業はたくさんありますから、「世の中の役に立つ」ことを調べてその分野に進めば、間違いなく未来を切り拓いていくことができます。

大学はすでに全入時代に突入していますし、ましてや洛北高校生であれば、それほど受験勉強をしなくても、大学の選択肢はいくつもあることでしょう。しかし、「行ける大学のなかから進学先を選ぶ」と、成長の機会を自ら放棄していることになりません。受験にかぎらず、高校生は「学習方法を学ぶ」非常に大切な時期なので、この時期に努力を怠ると、その影響は生涯にわたって続くことになります。

まずは、「大学を知る」「社会に必要とされている学問や仕事を調べる」という努力を始めましょう。調べ方がわからない人や、具体的なアドバイスが欲しい人は、とくにえあず進路指導部に足を運んでみてください。悩んだときに「自分から行動すること」も、生きていくうえで、とても大切なことです。

### Q：進路指導の先生に成績の相談をしてもいいですか？

A： もちろんです。進路指導部では、各種のデータや資料をもとに皆さんの進路の相談に乗るほか、面談希望があれば面談をしますし、学習方法などの相談も大歓迎です。自分一人で悩むよりも、相談すれば解決することの方が多いため、担任の先生はもちろん、「相談できる人・場所」を一つでも増やしておくために、ぜひ声をかけてみてください。

### Q：学校推薦型・総合型選抜について知りたいです。

A： 学校推薦型選抜や総合型選抜についての質問も幾つかありました。近年、こうした入試の割合が増えていることは知っている人も多いかと思います。国公立・私立を問わず、ほとんどすべての大学が、推薦・総合型の入試を設定しています。ただし、いわゆる指定校推薦は私立大学にしかありません（京都府立大学・京都教育大学など、京都府内の高校出身者に限定した入試制度を持つ大学はあります）。

総合型は成績基準が設定されていない場合が多いですが、推薦の場合は成績基準を満たさないと出願できません。また、推薦は校内人数制限枠が設けてある場合に校内選考を実施しますので、いずれにせよ好成績を維持しておきましょう。推薦基準や人数制限枠など、くわしい情報が知りたい場合は、進路指導部まで来てください。

ちなみに、洛北高校での国公立推薦の合格率は例年40%程度ですが、合格率を大きく左右するのが志望理由の明確さです。また、1・2年生の頃から、サタデープロジェクトなどに積極的に参加している人は、アピールできるポイントがたくさんあるため、合格しやすいと言えます。

### Q：受験勉強のやり方について悩んでいる。

A： 日々の授業の学習方法や、部活動との両立、また、受験勉強の始め方などに悩んでいる人もいます。まず、毎日の学習については、とにかく授業に集中すること、予復習を欠かさないこと、この二つをやり切ってください。部活動との両立に悩む人も多いのですが、先輩たちの体験談からは、スキマ時間を有効に活用していることがわかります。また、部活動で疲れているときに、「ちょっと休憩してから…」と思っても、ほぼ100%寝てしまいますので、「休憩はやることをやってから」が鉄則です。「寝るときは寝る」「やるときはやる」というメリハリを大切にしましょう。

学習塾へ通うかどうか迷っている人もいますが、学校の勉強がうまくいっていないときに塾へ通うようになると、ほとんどの人が課題の量に溺れて成績を下降させてしまいます。まずはしっかりと予習・復習し、わからないところを質問するなど、基礎基本を徹底して、学校をフル活用しましょう。

受験勉強というと何か特別な勉強があるように思いますが、実際には普段の授業や小テストの延長が受験であり、授業で習ったことをきちんと活用できるようになれば、どの大学にも合格できます。大切なのは、小テストをクリアすればすぐ忘れてしまうような「その場しのぎ」でなく、「できるようになろう」「やってみよう」と考えて授業を受け、課題を解き、小テストの勉強をすることです。それが受験勉強です。

### Q：自分の学力で志望校に行けるかが不安です。

A： 1・2年生のうち、志望校との距離が掴めず、不安に思うことがあるかも知れません。一つには、校内で受験するベネッセの模擬試験の成績を確認してみましょう。自分の学習到達ゾーン（GTZ）と、目標とする大学のGTZの目安がわかれば、参考になるでしょう。各大学の合格目標ゾーンについては、教室に掲示してあるはずですが（無ければ進路指導部まで来てください）。2年生からは模試のたびに志望校判定が出ますので、それも目安になります。しかし、3年生になるまでは志望校への距離を意識するより、とにかく基礎を徹底的に固めて、しっかりした学力の土台づくりをするのが何より大切だと言えるでしょう。